

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300534
法人名	医療法人 おさしお会
事業所名	グループホーム かたらい
訪問調査日	平成21年10月13日
評価確定日	平成21年12月19日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300534
法人名	医療法人 おさしお会
事業所名	グループホーム かたらい
所在地	鹿児島県鹿屋市笠之原1321-1 (電話) 0994-43-2195

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年10月13日	評価確定日	平成21年12月19日

【情報提供票より】(21年9月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(9月29日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87,3 歳	最低	76 歳	最高	104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎内科 あさい歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体の病院に隣接し、よりあいデイサービスと並んで当ホームが建てられている。くつろぎの空間ホールは、秋にはコスモス、赤とんぼ、柿の木の貼り絵などで季節感を出し、明るく清潔で家庭的な造りは気軽に尋ねて行きやすい雰囲気を持っている。職員の離職もなく、なじみの職員が利用者に寄り添い利用者のできることに目を向けた支援、個々にあったケアを実践している。管理者は当初より「自分達職員は家族の代わりはできない。利用者にとっては家族が一番である。」と家族に伝え、常時ホームを訪れることを希望し、家族も何事にも協力的で面会も多い。運営推進会議も利用者、職員も参加し、改善点を活発に話し合い、サービス向上に活かしている。医療連携体制は整っており、家族や利用者にとって安心して過ごせるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の年間研修計画の作成の指摘を受け、管理者を中心に職員の意見も取り入れた年間研修計画ができています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は毎日のミーティングで1ヵ月近くかけて話し合い、まとめている。外部評価の結果は家族、運営推進会議、市町村に配布している。常にホームの改善課題をあげ、職員のスキルアップにつなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヵ月に1回、町内会長、老人会長、市職員、包括支援センター職員、家族代表、利用者、職員が参加し開催している。外部評価の改善モニターとして色々意見をもらっている。会議の中で夜間想定避難訓練を実施し、問題点をあげてもらったり、認知症サポーター養成講座での勉強会を実施している。また、行事の際は家族や地域の方々からボランティアの申し出をもらうなどサービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見を引き出す工夫としてホームの相談受付担当職員を2名立て、家族の面会時に声掛けし、意見を汲み上げるよう取り組んでいる。家族からの要望に対しては職員が共有し、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣近所とは挨拶を交わしたり、声掛けし一緒にお茶を飲んだりしている。また、高齢者宅におかずのおすそ分けをしたり、野菜をいただいたりの関係をもっている。ホームで行う焼肉大会、クリスマス会には参加のチラシを地域に配布し、利用者、家族、地域住民が楽しんでいる。保育園の運動会やグランドゴルフ大会なども見学している。中学生の職場体験、ボランティアの踊りやマジックショーなど受け入れ、交流を盛んに行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、設立時の理念を土台に地域密着型サービスとしての理念を職員全員で作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールに掲示、毎朝リハビリの時間に利用者とともに唱和し、意識してケアに取り組んでいる。運営推進会議、家族会、ホーム便りにも掲載し、理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所とは挨拶を交わしたり、声掛けし一緒にお茶を飲んだりしている。また、近くの高齢者宅におかずのおすそ分けをしたり、野菜をいただいたり関係をもっている。ホームで行う焼肉会、クリスマス会には参加のチラシを地域に配布し、利用者、家族、地域住民がともに楽しんでいる。保育園の運動会、グランドゴルフ大会にも見学や参加をしている。中学生の職場体験、ボランティアの踊りやマジックショーなど受け入れ、交流を盛んに行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は毎日のミーティングで1ヵ月近くかけて話し合い、まとめている。外部評価の結果は家族、運営推進会、市町村に配布している。ホームの改善課題をあげ、職員のスキルアップにつなげている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見サービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、町内会長、老人会長、市職員、包括支援センター職員、家族代表、利用者、職員などが参加し開催している。外部評価の改善経過モニターとして色々意見をもらっている。会議の中で夜間想定避難訓練を実施し、問題点をあげてもらったり、認知症サポーター養成講座での勉強会を開催している。行事の際は家族や地域の方々からボランティアの申し出をもらうなど、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に行事記録や便りを持参し、見てもらっている。報告書についても相談、指導をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、家族会、運営推進会や担当者会議時に報告している。利用料支払いは面会をかねて持参支払いをお願いしている。異常時には電話報告もしている。金銭管理については家族に出納帳に入金額の記入をしてもらい、領収書を渡すと同時に出金および残金の確認をお願いしている。ホーム便りも定期的に郵送、職員の異動についても掲載している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会でもなかなか意見がもらえず、意見を引き出す工夫としてホームの相談受付担当職員を2名立て、家族の面会時に声掛けし、意見を汲み上げるよう取り組んでいる。家族からの要望に対しては職員が共有し、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は2年間なかったが、今回法人内異動で新規採用が1名あり、利用者へ報告、納得してもらっている。従来の職員の頑張りでなじみの関係は保たれている。今後もホーム内の職員異動は抑えるよう取り組んでいく。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、段階に応じた研修参加ができている。法人内に委員会があり各種勉強会を合同で行っている。隣接の病院研修やホーム内研修も夜間に実施し勤務者以外は全員参加し、スキルアップにつなげている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隈地区グループホーム連絡協議会に加入し、地区の同業者との交流ができている。同グループ内研修や交流の場を持ち、良い点を取り入れ職員はケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前、本人家族に見学してもらいお茶と一緒に飲んだり、なじんでもらうよう配慮している。ホームの雰囲気を感じてもらい、重要事項説明書を良く理解し、納得いただいたでの入居となる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々、利用者の知恵をもらいながら昔懐かしい団子、ピーナツ豆腐、トコロテン、煮しめなど作ったり、野菜の種まきの時期など教えてもらったりして支えあう関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族から生活歴を聞いたり、本人と何回も会話をもったり、また寄り添い傾聴し、本人の思いや意向の把握に努めている。担当者が気づいたことは申し送りして全職員が把握できるようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>担当者会議を開き、本人、家族の意見、看護師、必要時には医師のアドバイスを、職員の気づきなどを反映させた本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直し(6ヵ月に1回)をしている。変化があればその都度新たな計画を立てている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を取っている。他科受診や墓参り、美容室送迎の支援をしている。体験入所も可能な限り実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の意向を踏まえ、事業所系列のかかりつけ医となっている。専門医などの受診は同行し適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人内の重度化・看取りの指針を作成し、入居時に説明、同意をもらっている。主治医と相談し、家族と連携しながら支援する。早い段階から家族、主治医と繰り返し話し合い、職員も方針を共有している。病院が隣接している関係もあり職員も不安なく対応できている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	写真掲載も家族の同意を得て個人情報保護の取り扱いにも十分配慮している。排泄や入浴時の声掛けについても誇りやプライバシーを損ねることがないように留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが個々の思い、状況に応じた支援をしている。ラジオ体操、リハビリ体操も無理強いせず、本人の希望にあわせている。声掛けはするが起床時間、就寝時間も本人の思いを優先している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや、盛り付けなどできることをしてもらっている。準備しながら配膳時の注意など職員に指導してくれる利用者もあり、学びの場にもなっている。職員も一緒に和やかに話しながら食事を摂っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日を決めているが希望に応じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除を率先している利用者もあり、自分でお金を管理し買い物をしたり、ドライブなどを楽しんでいる。公園、足湯、あじさい見学(弁当持参)、ピクニック、焼肉祭り、ぶどう狩り、外食、カラオケボックスに出かけている。個々にできることの支援を心がけ、常にできることの喜びを感じてもらえるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴、散歩、日常の買い物に同行している。気分転換にデイサービスの送迎にも同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路沿いの為、家族の希望もあり、安全の為玄関は施錠している。外出は希望に応じて職員が同行している。利用者の思いをかなえる対応は出来ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回は法人全体の避難訓練があり、2ヵ月に1回自主訓練を実施している。応急処置の訓練も職員は受けている。避難場所も確保し、隣接する病院の職員に見守りなど依頼している。今年度は運営推進会議(地元消防団員参加)の中で避難訓練を実施し、メンバーの方々から貴重な意見をもらい、今後の災害対策に活かすことが見え、収穫のある訓練となった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録、把握している。利用者に応じた食事形態もキザミ、ミキサー食、トロミ食など提供している。栄養バランスについては法人の管理栄養師にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイニング部分の一部が畳コーナーになっている。テレビやソファが家庭的に配置され、季節の花や貼り絵で季節感を味わえるよう工夫している。浴室はエアコンがない為、夏場は扇風機、冬場はハローゲンヒーターで対応している。室温、換気の調整もこまめにチェックしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の名称が1丁目、2丁目の さんと親しみの持てる表札になっており、居室入口ドアの小窓は目隠し用カーテンをし、プライバシーを保っている。洋室の部屋だけでなく畳の部屋も2つある。備え付けタンスは各居室、形の違うデザインのもの置いて個性を出した居室にしてある。家族の写真や家で使用していたものを持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。		